

世帯主の年齢が65歳以上の世帯（二人以上の世帯（農林漁家世帯を除く。))について消費支出の内訳をみると、「食料」の割合が25.2%と高いが、1980年代以降の傾向をみると、その割合が低下している一方で、「交通・通信」、「保健医療」などの割合が上昇している（図1 - 2 - 17）

エ 貯蓄・資産

世帯主の年齢が65歳以上の世帯（二人以上の世帯）の貯蓄の状況についてみると、平成16（2004）年において、一世帯平均の貯蓄現在高は、2,504万円となっており、全世帯（1,692万円）の約1.5倍となっている。

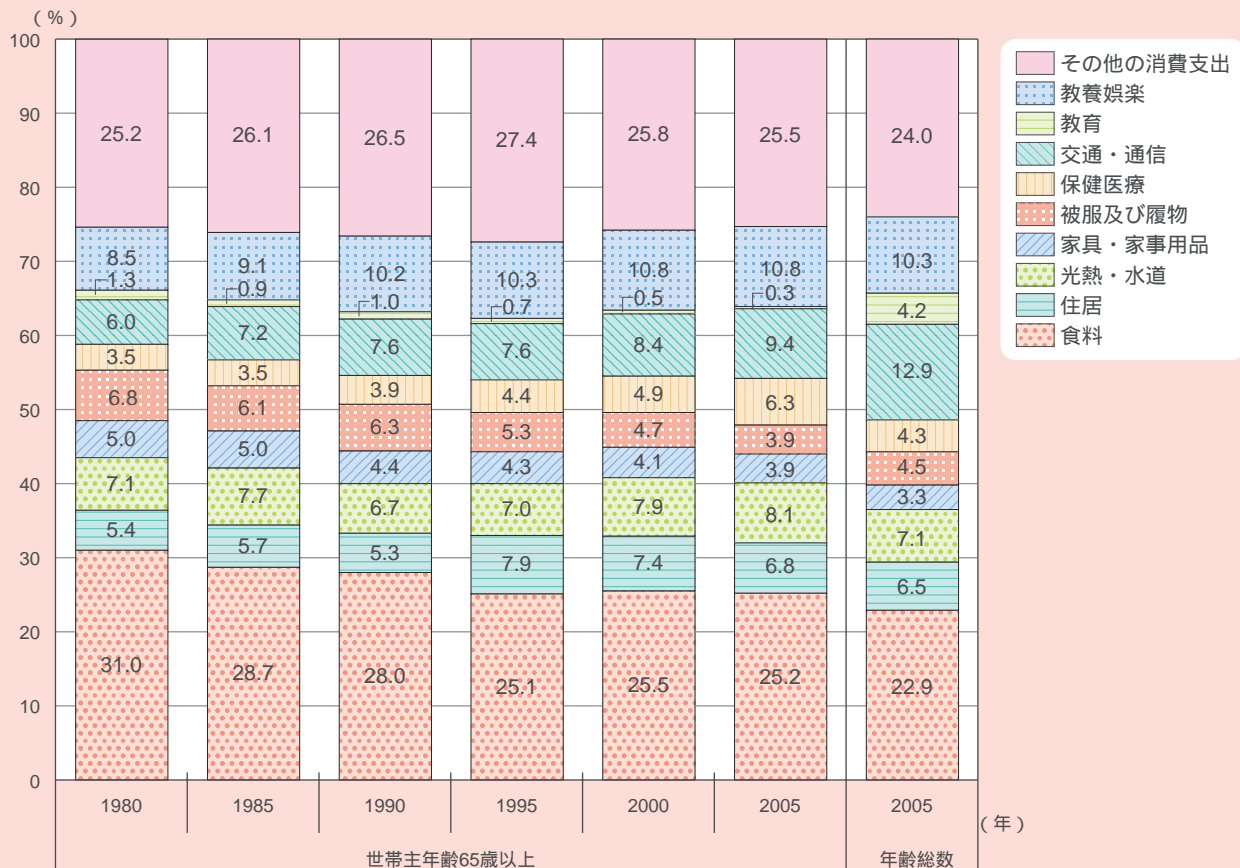
貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、世帯主の年齢が65歳以上の世帯では、4,000万円以上の貯蓄を有する世帯が18.6%と全体の2割弱を

占め、また、全世帯（9.9%）の2倍の水準となっている（図1 - 2 - 18）

世帯主の年齢が65歳以上の世帯（二人以上の世帯）について、負債の現在高をみると、100万円未満の世帯がおおよそ9割を占めている。また、負債が貯蓄を超えている世帯の割合は4.8%にとどまり、全世帯（21.7%）の約4分の1となっている（図1 - 2 - 19）

現在の貯蓄や資産が老後の備えとして十分かどうかについて、まず、60歳以上の高齢者の意識をみると、「十分だと思う」、「まあ十分だと思う」を合計した「足りると思う」が44.8%である一方、「やや足りないと思う」と「まったく足りないと思う」を合計した「足りないと思う」は45.2%であり、両者の割合はほぼ拮抗している。また、年齢階級別にみると、「足りないと思

図1 - 2 - 17 世帯主の年齢が65歳以上の世帯における消費支出構成比の推移



資料：総務省「家計調査」(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く。))より作成